

日本細菌学会 平成27年第4回理事会議事録

- 日 時：平成27年11月26日（木） 11：30～17：00
- 会 場：北里大学 薬学部1604会議室
- 出席者：堀口安彦 理事長
阿部章夫, 大西 真, 川端重忠, 木村重信, 桑野剛一, 古西清司, 白井睦訓, 関水と久,
中川一路, 西川禎一, 林 哲也, 松下 治, 八木淳二, 山口博之 各理事
大原直也 監事
赤池孝章 学会賞選考委員長, 神谷 茂 名誉会員選考委員長
- 欠席者：川原一芳, 辻 孝雄 各理事
三宅眞実 監事

※五十音順 敬称略

I. 開会（理事長挨拶）

II. 確認事項

堀口理事長より、前回理事会（平成27年第3回理事会）の議事録は、事前に電子ファイルで回覧しているが、さらにご意見等があれば本理事会中に受け付ける旨、説明があった（理事会次第P1～7）。

III. 総会報告

1) 第89回総会準備状況報告（堀口第89回総会長）

別添資料1および次第P8～10に基づき、第89回総会ではシンポジウム9企画、ワークショップ23企画となったこと、2日目（3月24日）の12:55～13:40にノーベル賞を受賞された大村智先生に市民公開講座をお願いした旨、報告された。それに伴いポスター撤去時間が遅くなったこと、懇親会は行わずミキサーをポスター会場で開催することも合わせて報告された。また（報告時）現在、一般演題登録368題（第88回総会は421題、第87回総会は484題）であることから、（締切間近ではあるが）ふるって演題登録して欲しいとの要請があった。

2) 第90回総会準備状況報告（赤池第90回総会長）

仙台国際センター展示棟（地下鉄東西線で仙台駅から4分）で平成29年3月19日（日）～21日（火）までの会期で開催予定であること、19日にICD講習会を開催すること、シンポジウム・ワークショップの企画はこれからであることが報告された。

IV. 報告事項

1) 総務部会報告

①総務・渉外担当報告（阿部理事）

資料（次第P11～12）に基づき、平成27年10月31日時点での会員現況が報告された。前年度（平成26年11月27日時点）に比べ名誉会員、正会員は横ばい状態だが、学生会員は増加したとの説明がなされた。特筆すべき事項として、堀口理事長の意向に従い各理事が奔走した結果、賛助会員が42社と大幅に増加したとの説明があった（平成26年11月27日時点では25社）。なお、次第P12には総会報告時の会員数の推移を推移表の形で示したとのこと。

②広報・HP作成担当報告（中川理事）

中川担当理事より、Facebookにて日本細菌学会のHPを仮オープンしているが閲覧数はあまり伸びていないことが報告された。その原因の一つとして、仮オープンであるためHPからはリンクは張っていないことも挙げられるのではないかと説明があった。

- ・ この説明をうけ、堀口理事長より、Facebook ページを本格運用することを理事会として承認したいとの提案があり、了承された。
- ・ なお、Facebook ページの改編はHP 担当の中川理事にお願いすることとなった。
- ・ 日本細菌学会との友達申請などの可能性も含めて、Facebook ページを継続して使用したくなるような魅力ある工夫をして欲しいとの意見があった（山口理事、西川理事）ことから、本格運用後、種々の試みを行って利用者数を増やしていくこととなった。

③選挙関連担当報告（八木理事）

八木担当理事より、Web 選挙に関する作業概算が教育ビジネスサポート株式会社からあがってきたことが報告された（別添資料5）。これについては審議事項とすることとなった。

2) 財務部会報告

①会費・会計担当報告（関水理事）

関水担当理事より、平成 27 年度の予算執行状況は現時点では順調で、200 万円程度の黒字となる可能性のあることが報告された（次第 P16）。なお、収入の部に記載されている寄付金（630 万円＝特別名誉会員・大村智先生より 600 万円＋若手研究者育成ワークショップ支援より 30 万円）は（前回の理事会決定に基づき）別立て予算とすることから、寄付金は「0」と訂正することも報告された。

②賛助会員担当報告（西川理事）

西川担当理事より、前回の理事会時点では賛助会員数は急増したが、それ以降は変動無しとの報告があった（次第 P17）。堀口理事長より、チャンスがあれば引き続き賛助会員増に向けて努力して欲しいとの要請があった。

3) 学術部会

①学術支援・評価担当報告（林理事）

林担当理事より、前回の理事会決定により、小林六造記念賞・黒屋奨学賞の選考基準案を学術支援・評価委員会（委員長：林理事）において作成することとなっていたが、（堀口理事長と相談の上）これまでの資料・議論を踏まえる必要があるため、学術支援・評価委員会の正副委員長および過去 5 年間の選考委員長の 7 名で案を作成すること、また、今回の選考後に行う旨報告された（資料なし）。なお、申し合わせ事項レベルの変更となるため、評議委員会・総会での承認事項とはならないが、きっちりと明記したものにすると堀口理事長の意向が示された。

②学術企画分野

1. シンポジウム等企画担当報告（中川理事）

第 89 回日本細菌学会総会（堀口総会長）のシンポジウムについての報告は特になしとのこと（中川理事）。なお、堀口理事長より、シンポジウム等企画担当を来年度は西川理事にお願いすることになった旨の報告があった。

2. バイオセーフティ担当報告（大西理事）

- ・ 大西担当理事より、前回の理事会で報告したように「日本細菌学会（堀口理事長名で）から厚生労働省健康局結核感染症課長宛に、米国で開発された腸チフスのワクチン株である、*Salmonella enterica* serovar Typhi strain Ty21a を対象病原体の指定から除外するよう申し入れた」が、現在作業中とのことで、まだ厚生省告示は出されていないことが報告された。また、「病原体と安全取り扱い・管理指針」の改定については、上記の腸チフスのワクチン株の指定からの除外が完了してから行う予定である旨報告があった。
- ・ 岐阜大学 江崎先生より堀口理事長宛に、炭疽菌と野兎病菌のワクチン株の取り扱いレベルが完全に

は規定されていないことについて改善要望書（次第 P30）が出されていることに関して、今後 BSL を含め確認後対応する予定であることが説明された。また合わせて、（江崎先生が指摘されている菌株を含め）細菌学会 HP と冊子体のレベル分類を整理していくとのこと。

3. ICD 制度協議会等担当報告（桑野理事）

桑野担当理事より、本年度は4名（3名は歯学系で1名は医学系）の申請があり資格審査を行った結果、有資格者と判断されたため細菌学会事務局から ICD 制度協議会へ申請書を提出したことが報告された（資料なし）。

③ 学術交流分野

1. 日本微生物学連盟担当報告

川原担当理事の代理として松下理事より、平成 27 年 8 月 28 日に開催された第 16 回日本微生物学連盟理事会の報告がなされた（次第 P18）。内容は以下の 3 点。

- ・（感染研で）BSL-4 の稼働が認められたこと。
- ・ 次回の IUMS は、2017 年 7 月 17 日～21 日にシンガポールで開催される予定であること。
- ・ 江崎先生が作成された関係大臣への生物多様性条約と名古屋議定書に関する要請書案については、会議で出された意見を踏まえ改編して再度作成するとのこと。

2. 日本学術会議担当報告（堀口理事長）

堀口理事長より、日本学術会議総合微生物科学分科会は上記の日本微生物学連盟理事会と合同で開催されたため、特に追加する報告事項はないことが報告された。なお、次第 P19～22 の資料は平成 27 年 4 月に開催された議事録で報告済みの内容であるとのこと。

3. 日本医学会連合担当報告（八木理事）

報告事項は無しとのこと。

4. 予防接種推進専門協議会担当報告（大西理事）

大西担当理事より、（細菌学関係では）本協議会で肺炎球菌ワクチンのファクトシート作成作業が開始していること、今後それに（細菌学の）専門家の意見を取り入れて作成する予定であることが報告された（資料なし）。

4) 教育部会報告

①次世代教育・人材育成担当報告（松下理事）

松下担当理事より、追加資料（番号無し）を基に平成 27 年 11 月 23～25 日に鹿児島で開催された第 9 回細菌学若手コロッセウム（代表世話人：小松澤先生）について報告があった。報告内容は以下の 4 点。

- ・ 参加者は 74 名であったが熱のこもった活発な会であったこと。
- ・ 第 10 回細菌学若手コロッセウムは富田先生（群馬大学）が代表世話人となり開催予定であること。
- ・ 一般の細菌学会員に対し、細菌学会の支援のもと若手コロッセウムが開催されていることを広くアピールするため、日本細菌学会総会において若手コロッセウムの発表をベースとしたワークショップを開催して欲しいとの小松澤先生からの提案があったこと。
- ・ 次世代教育・人材育成という面からは、細菌学若手コロッセウムは優秀な若手の人材の宝庫としても捉えることができること。

堀口理事長より、次年度の日本細菌学会総会では小松澤先生からの提案（若手コロッセウムの発表をベースとしたワークショップ開催）を実現させていきたいとの意向が述べられた。

②教育資源発掘・保存担当（松下理事）

松下担当理事より、細菌学教育用素材集（DVD）の第2版「グラム陽性球菌の同定、グラム陰性桿菌の同定」のパッケージのデザイン案が示され（追加資料：番号無し）、内容紹介も行われた。また、完成後は第89回総会で販売予定である旨報告された。

5) 出版部会報告

①学会誌担当報告（大西理事）

大西担当理事より、日本細菌学雑誌第70巻3号が2015年8月31日に発行されたこと、黒屋奨学賞の受賞論文4編および追悼文が掲載予定である第70巻4号が最終校正段階にあることが報告された（資料なし）。

②M I 誌担当報告（川端理事）

川端担当理事より、別添資料2および3を基に以下の報告があった。

- ・ 2015年は過去2年間と比較して投稿数が増加していること。
- ・ 2015年はReviewやMini Reviewを増やしたこと。
- ・ しかしBacteriology領域の論文採択率が低い（16%）こと。
- ・ 2014年からは中国からの投稿数が日本を抜いて一位となっていること。
- ・ 2014年のIF値が1.242と過去2年間徐々に低下していること。
- ・ 日本のCitation値は1.14とあまり高くないこと。
- ・ 機関別のCitation値には大きなばらつきがあること。

③用語集担当報告（八木理事）

八木担当理事より、前回の理事会（懇談会）で挙げられた南山堂との確認事項につき、小枝氏と話し合ったことが報告された。これを踏まえ、「用語集+便覧をWeb版で残す」という用語委員会からの提案について、懇談会で討議することとなった。

6) 国際交流部会報告

①IUMS等担当報告（古西理事）

古西担当理事より、前回の理事会で報告した日程よりは早まり、次回のIUMSは、2017年7月17日～21日にシンガポールで開催される予定であることが報告された。日本細菌学会としての広報活動は約1年前を目処に開始する予定であるとのこと（資料なし）。

②日韓微生物等担当報告（桑野理事）

桑野担当理事より、前回の理事会で報告した通り、13th KJISM（韓日国際微生物学シンポジウム）は2016年5月12～13日に韓国慶州市で開催される予定であることが報告された。現時点でのプログラム案（次第P23）では5月13日に4つのシンポジウムが開催される予定で、日本人の参加者は座長4名と含め12名を予定していることが報告された。また（Sang In Chung教授の言によれば）12月中旬頃にはFirst circularが完成する予定であるとのこと。

7) 社会交流部会

①利益相反担当報告

報告事項なしとのこと。

②倫理担当報告（白井理事）

追加資料（番号無し）の日本細菌学会内規第8章に「日本細菌学会員の研究における不正行為への対応に関する内規」が明確に示されていることから、文部科学省のガイドラインの改訂に伴う内規の改訂は現時点では必要無しとの倫理委員会での提案に基づく理事会での見解を確認した。しかしこれにつき追加意見があれば検討する旨、白井担当理事より説明があった。

8) その他

特になし.

V. 審議事項

1) 学会賞の選考結果について（赤池学会賞選考委員長）

別添資料 4 をもとに、赤池学会賞選考委員長より平成 27 年 10 月 19 日に開催した、浅川賞、小林六造記念賞、黒屋奨学賞の選考委員会の選考結果（浅川賞は池 康嘉 氏、小林六造記念賞は小嶋誠司 氏、黒屋奨学賞は井口 純 氏および日吉大貴 氏）について報告があり、承認された。なお、受賞者には今後、細菌学会へのさらなる貢献を期待したいとのコメントや、公募要領を含め具体的な選考基準案の作成の必要性が再認識されたとの意見があった。

2) 新名誉会員の選考結果について（神谷名誉会員選考委員長）

次第 P24～26 をもとに、日本細菌学会の新名誉会員として5名の候補者（内山竹彦 氏、奥田克爾 氏、島村忠勝 氏、中村信一 氏および本田武司 氏）全員が名誉会員としてふさわしいとの名誉会員選考委員会での選考結果について神谷名誉会員選考委員長より報告があり、承認された。

3) 総会号について

第 89 回総会より、総会号を製本せず、プログラム集のみを印刷物で発行・発送し抄録内容は J-Stage に掲載することは決定しており、これまでの実績からすれば 130 万円以上の節約になることが予想されることが、堀口理事長より説明された（次第 P27～29）。しかし、J-Stage 上の PDF file からの抄録の検索を行にくいことを鑑み、第 89 回総会長の立場として堀口理事長より、（最近の学会で利用が進んでいる）抄録用アプリを利用（配布）したいとの要望が出された。抄録用アプリは抄録検索が格段に容易となるものであるが、実績のあるアプリの場合、120 万円程度の費用がかかるとのこと。そこでその費用を学会本部の予算から計上してほしいとの要望が出された。種々検討を行った結果、要望通り抄録用アプリ導入に関わる費用を学会本部の予算から計上することとなった。但し、今回の導入は試行とし、第 90 回以降の総会で同様に抄録用アプリを導入するかについては、来年度再度検証を行った後、決定することとなった。また、印刷物としてプログラム集を残すかについても今後検討することとなった。

4) 韓日国際微生物学シンポジウムの予算について（桑野理事）

桑野担当理事より、これまで韓日国際微生物学シンポジウムについては、日本学術振興会の二国間交流事業に申請・採択された額（120 万円）を参加した（座長を含む）日本人シンポジストの渡航費用にあてていたこと、今回も 13th 韓日国際微生物学シンポジウムにむけ同申請を行っていることが説明された。前理事会では二国間交流事業に不採択の場合の日本人シンポジストの渡航費用（120 万円）および若手ポスター発表者への助成金を合わせ 200 万円の予算立てをした経緯があったとのことから、桑野担当理事より、今回の韓日国際微生物学シンポジウムにむけた予算対応について審議要請があった。種々検討を行った結果、二国間交流事業に不採択の場合には、予算執行状況を見ながら、シンポジストの渡航費用を減額し（個別に相談）、一部を学会本部予算から執行することとなった。

5) 法律除外ワクチン株について（大西理事）

大西担当理事より、追加報告として以下の提案がなされ、了承された（次第 P30）。

- 炭疽菌と野兔病菌のワクチン株の BSL については（現状はレベル 3、細菌学会の HP 上はレベル 2 だが）BSL1 とするか BSL2 とするかをバイオセーフティー委員会で検討すること。
- なお、厚生労働省に申し入れを行っている *Salmonella enterica* serovar Typhi strain Ty21a については BSL1 となる見込みであること。

- ・ *Mycobacterium bovis* BCG 株のバイオセーフティーレベル分類を含め、細菌学会の HP のレベル分類と感染研の HP のレベル分類との整合性についても今後検討して行くこと。

6) 日本細菌学会と口腔保健協会の平成 28 年度事務委託契約について

次第 P31～40 をもとに、事務局 早瀬氏より、平成 27 年度実績から平成 28 年度も（平成 27 年度と同額の学会事務委託費となるとの説明があり、審議の結果、契約を継続することとなった。

7) 会員データの整備システムについて

次第 P41～44 をもとに、事務局 早瀬氏より以下の提案がなされ、審議の結果、OHASYS(オハシス)の導入が承認された。

- ・ 学会員のデータ整備の新システムとして OHASYS を導入し、HP 上にバナーを掲載すること。
- ・ このシステムでは、会員登録の内容を会員自らに変更でき、手続きが簡略化すること、また、選挙の際に、選挙人の資格の確認にかかる費用が削減できること、さらに、OHASYS のメール配信機能を利用すれば、現在使用しているメーリングリストよりも（ファイルを添付しないメール配信が多い場合）経費削減が可能となることなどのメリットがあるとのこと。
- ・ なお、現状の登録内容は反映された状態でスタートすることのこと。

8) その他

なし

VI. その他

1) 平成 28 年第 1 回理事会について（堀口理事長）

堀口理事長より、平成 28 年第 1 回理事会は平成 28 年 1 月末～2 月上旬を予定しているが、平成 27 年同様、第 1～4 回の理事会すべての日程を早めに決めたいとの意向が示された。近々に日程表をまわし調整することのこと。

VII. 閉会